『博聞強記』

画家のティエポロは、何を記録したのか。
ティエポロは、スマートフォンに
何を記憶するだろうか。

インターネットは、心を記録するものである。
記録したものを、自分の言葉で伝えていこう。

PIPED BITS

「アペレスの工房のアレクサンドロス大王とカンパスペ」
ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ（1740）

『国際オープンデータ・デイ』

2月22日の土曜日に、世界158都市で国際オープンデータ・デイが開催された。国内では東京、千葉、横浜、名古屋、大阪、京都などの32都市で開催された。今年は国内での開催地が昨年の4倍に広がり、国内各地でのオープンデータへの関心が高まりを見せている。

オープンデータとは、著作権や特許などの制限なく、全ての人が利用しやすい形でデータを公開するべきというアイデアで、インターネットの普及にともない公的機関にその対応が求められるようになった。将来的には、公的役割を担う民間企業へも広く対応が求められるようになるだろう。

国際オープンデータ・デイは、オープンデータの普及啓発を目的として、世界で一斉開催されるイベントだ。行政や自治体が保有する情報が著作権フリーかつ二次利用できる形式で公開されたとして、その情報を如何に利活用するか、そのアイデアやソフトウェア開発のコンテストが行われる。

東京オープンデータ・デイでは、官民合わせて約100名の参加者が集まり、「広報紙データの活用」をテーマにアイデアを出し合っていた。自治体は月に2回から3回のペースで広報紙を発行しているが、あまり読まれていない現状がある。新聞の折り込みや郵便受けへの投函などで配布しても、アパートの集合ポスト近辺に捨てられるなど、特に若い世代を中心に読まれていない。

そこで、現在は自治体からの一方通行の情報発信となっている広報紙を、オンラインの公開プラットフォームにして、住民が知りたい情報を収集、調査した結果を掲載したり、市民モニターによる市民目線の記事を掲載したり、さらには、行政サービスそのものの検討に住民が参加する機会を作るなど「住民の参加によるまちづくり」につながるアイデアが提案された。

このように、インターネットを有効活用しようと努力する自治体はどんどん増えてきている。若者たち、特に2月の東京都知事選でネットをフル活用して選挙戦に臨んだ家入氏を応援し、ボランティアで選挙活動に協力した有能な若者たちには、その能力と志を、是非ともこういった目の前の自治活動の改善に振り向けて頂きたいと思う。

佐谷宣昭　Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。㈱パイプドビッツ社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など3067の事業者に情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイプドビッツ
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601（代表）　http://www.pi-pe.co.jp/